

教職課程

自己点検・評価報告書

令和 5 年 7 月

四條畷学園短期大学 保育学科

目 次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	3
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	4
III	今後の教職課程教育・運営の課題	5
	現況基礎データ票	6

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：四條畷学園短期大学 保育学科
- (2) 所在地：大阪府大東市学園町 6-45
- (3) 学生数及び教員数（令和 5 年 5 月 1 日現在）
 - 学生数：178 名
 - 教員数：8 名
 - （内、教育委員会との交流人事 0 人）

2 特色

本学園は、大正 15 年（1926 年）、創立者牧田宗太郎、環（たまき）兄弟が亡き母に対する報恩感謝の念を表すために四條畷高等女学校を設立したことに始まる。母の慈愛に感謝し、その恩に報いるために女子教育という社会貢献に身を投じた創立者の強い思いは、本学の建学の精神「報恩感謝」に込められ、さらに教育理念「人をつくる」に結実している。現在は保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学を有する総合学園となっている。

短期大学は、昭和 39 年（1964 年）家政科の単科短期大学として開学し、昭和 47 年（1972 年）に児童教育学科を増設、課程認定を受けた。以来、幼児教育学科、現在の保育学科と名称変更を経ながら半世紀に渡って教育者を輩出し続けている。園長や主任等管理職として活躍する卒業生も少なくなく、後進の育成においても貢献している。

保育学科は、幼稚園教諭（二種）教職課程において、現代社会や地域の多様なニーズに対応できる専門的知識と技能を習得し、それを実践する力を持った質の高い教育者、保育者の養成に努めている。また、子どもに豊かな情操を育むことができる技能と感性を養うため音楽・造形・身体表現に関する授業科目を充実させ、さらに人間性豊かでコミュニケーション力のある教育者を目指し、授業内外で「なわたん Style」を合言葉に学生が自らの振る舞いを振り返る機会を設けて人間性の涵養にも取り組んでいる。

保育士養成課程を併修するカリキュラムのため、乳児の発達や保健、福祉の知識と技能も備えた保育教諭として、認定こども園への就労も可能となっている。

Ⅱ 基準領域ごとの自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

- (1) 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有
- (2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

[状況説明]

育成を目指す教育者像は、保育学科の教育目標および学修成果に具体的に明示されている。それらは、「学生便覧」「履修の手引き」「シラバスの作成ガイドライン」により学生、教職員間で周知され共有されている。非常勤講師には「非常勤講師の手引き」で重ねて周知、共有に努めている。

科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場教員を適切に配置し、事務職員との協働体制を構築している。教職課程の学修成果については、本学のアセスメント・ポリシーに基づき定期的に自己点検・評価を組織的に行っている。

[長所・特色]

実習依頼や調整、学生とのやり取りなど特に実習に係る業務において事務職員との協働は欠かせないものとなっており、保育士として現場経験のある担当事務職員が実習委員会に参画し役割を果たしている。

音楽・造形・身体表現に関する授業科目のための設備として、体育館、グリムホール、合奏室、合唱室、ピアノの個人レッスン室（21室）、木工室、絵画室を備えている。

教育課程の質的向上のための FD・SD の取り組みとして、半期毎に「授業評価アンケート」、年毎に「授業についての満足度調査」を実施し、前者の結果に関しては各授業担当教員、後者は保育学科長による報告書を求め、科目レベル、教育課程レベルの改善につなげている。また、非常勤講師含む教職員合同の研修会を毎年実施し、それぞれの教育業務改善に役立てている。

<根拠となる資料・データ等>

1-1-1 学則、1-1-2 学生便覧、1-1-3 履修の手引き、1-1-4 シラバスの作成ガイドライン、1-1-5 非常勤講師の手引き

1-2-1 学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）、1-2-2 学修成果を焦点とした向上・充実のための査定（アセスメント）と PDCA、1-2-3 授業評価アンケート、1-2-4 授業についての満足度調査、1-2-5 FD・SD 研修会受講アンケート報告

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

(2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[状況説明]

本学教職課程で学んでほしい学生像は、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に明確に示され、「大学案内」「学生募集要項」、ウェブサイト、オープンキャンパス等で周知している。高等学校の進路ガイダンスや模擬授業等に教職員が出向き、高校生および進路指導担当教諭に直接説明する機会も設けている。入学者選抜は、入学者受入れの方針に対応した方法で多面的、総合的評価を行い適切に実施されている。

令和 4 年卒業生の 93.9%が幼稚園教諭免許を取得し、そのうち 50.5%が幼稚園・認定こども園に就職している。

[長所・特色]

入学予定者には入学前学習として、教育・保育・福祉関連の推薦図書の読書感想文を課し、入学後の提出を求めている。さらに入学前ピアノレッスンや保育内容・実習に関する入学前授業を実施し、教職課程の学びに対するモチベーションを高めている。

教職へのキャリア支援を授業内外で行っている。授業科目として「キャリアと教養」を 1 年次後期に配置し、自己分析や模擬面接、社会人としての心得やコミュニケーション等の学習を通して教育者に必要な資質・能力の向上を図っている。授業外では「就職ガイダンス」や「就職講座」、「就職個人面談」を実施し、個々の学生のニーズに基づいた適切な助言指導を行っている。2 年次後期には履修カルテを活用した個人面談で学修状況に応じたきめ細やかな指導を行い、就職先未定の学生には就職委員会・キャリアセンターとも連携し、支援につなげている。公立幼稚園（認定こども園、保育所）への就職を目指す学生には 1 年次後期より公務員講座受講を支援し、合格実績を上げてきた。（令和 4 年度は 2 名：うち 1 名は 3 自治体に合格）「就職ガイダンス」や「就職講座」に卒業生をパネリストとして招き、就職活動の体験談や教職のやりがい等を語ってもらうなど、卒業生との協力体制を構築している。

<根拠となる資料・データ等>

2-1-1 大学案内、2-1-2 学生募集要項、2-1-3 高等学校の進路指導担当の先生方から意見聴取記録、2-1-4 保育学科入学前ピアノ実技・入学前授業資料、2-1-5 実習の手引き

2-2-1 資格取得状況表、2-2-2 資格・免許を活かした就業率（保育学科）、2-2-3 就職指導スケジュール

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

[状況説明]

履修年次ごとの科目群を明示し、二年間の学びのプロセスを可視化した「カリキュラム・マップ」および「授業科目ナンバリング」を作成し、各科目間の系統性の確保を図っている。該当科目のシラバスを教学委員等がチェックし、コアカリキュラムに対応した授業が実施されているか確認している。ICTを活用した授業をスムーズに展開するために学内の無線 LAN の拡充を進め、令和 5 年度にはすべての教室で利用可能となる予定である。

地域との連携については、平成 30 年四條畷市と「乳幼児教育・保育分野に関する連携協定」を締結し、実習・就職、相互研鑽、共同研究等の協働に取り組んでいる。

[長所・特色]

「教職実践演習」（保育・教職実践演習（幼））では系列幼稚園と連携し、園長の講話や幼児観察を行っている。事例検討やロールプレイを取り入れ、アクティブ・ラーニングを促すよう努めている。「履修カルテ」は個人指導のほか、学年全体のデータを統計的に処理し教師に必要な資質・能力における本学学生の強み・弱みの把握に活用し、授業内容の充実・改善に活かしている。

様々な体験機会として、「ボランティア活動」を正課授業として開講しているほか、節電・省エネの啓発、ペットボトルのキャップ収集等のエコ活動を行っている。こどもミュージカルや樟葉祭はコロナ禍で中止および縮小を余儀なくされたが、学内行事やサークル活動も地域の子どもや保護者と触れ合うことができる貴重な教育の機会と捉えている。実践的指導力の養成に関しては「幼児体育指導者 2 級」「こども環境管理士 2 級」「こども音楽療育士」「認定ベビーシッター」「認定ピアヘルパー」といった近接領域の資格取得を支援しており、現場の多様なニーズに応えることができる教育者の育成を目指している。（令和 5 年度入学生より新たな資格称号「こども食物アレルギー実務課程修了証」の導入を決定）さらに、遊びを通して様々なことを学ぶ幼児期の特性をふまえ、「保育のソムリエ認定」を独自に設けている。絵本や手遊び、造形、伝承遊びなどの幼児の発達や保育のねらいに応じて活用できる「遊び（教材）の引き出し」を増やし、実践的指導力の向上を図る取り組みである。

教職必修科目の履修状況、事前指導における出席・手続書類等の提出状況が著しく不良な場合は、教育実習の履修が中止となる実習要件を定めている。実習指導の授業開始前に毎回「なわたん Style 手帖」を開き、自身の生活や学習態度を振り返る時間を設け、実習に臨む心構えについての指導も重視している。

<根拠となる資料・データ等>

3-1-1 履修の手引き

3-2-1 実習の手引き、3-2-2 保育のソムリエノート、3-2-3 なわたん Style 手帖

Ⅲ 今後の教職課程教育・運営の課題

- ①授業担当者間で本学の教育目標および幼稚園教諭に求められる資質能力の共通理解を図り、再課程認定を受けた授業（コアカリキュラム対応）の確実な実施を今後も進めていく。
- ②ICT を活用した授業を支援するための研修会等を検討する。
- ③教職へのキャリア支援について、「キャリアと教養」の授業と「就職講座」、およびキャリアセンターの連携、役割分担等、より効果的な支援となるよう検討を進める。
- ④実習協力園（指定園）との教育目的の共有や教育委員会等と幅広く連携を図ることも視野に入れ、実践的指導力向上にさらに努める。

以上

現況基礎データ票

(令和5年5月1日現在)

設置者 学校法人 四條畷学園					
大学・学部名称 四條畷学園短期大学					
学科やコースの名称（必要な場合） 保育学科					
1. 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数					99 名
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等含む）					89 名
③ ①のうち、教員免許取得者の実数					93 名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）					50 名
⑤ ④のうち、正規採用者数					49 名
⑥ ④のうち、臨時的任用者数					1 名
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 （客員教授）
教員数	3 名	2 名	3 名	0	0 名